

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670101674		
法人名	オークランドホーム株式会社		
事業所名	オークランドホーム南原町木洩れ陽		
所在地	山形県山形市南原町三丁目11-1		
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 27日	開設年月日	平成16年 8月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3—31		
訪問調査日	平成25年 9 月 19日	評価結果決定日	平成 25年 10月 8日

(ユニット名 南原町木洩れ陽)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年4月に新築のホームに引っ越し、広々として明るいリビングでは、思い思いの居心地の良い場所で、入居者様の気分に合わせて時間の過ごし方ができるように支援しております。(自立支援)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋で屋根が高く存在感のある建物は、玄関を開けると「こんにちは」という利用者の出迎えがあり、家庭的な雰囲気が溢れています。昨年4月に全員歩いて引っ越し、新居の椅子の配置を以前のままにするなど、環境の変化を最小限に留め生活の継続性に配慮し、利用者と職員の信頼関係を強くする結果となっています。職員の異動等もありましたが、管理者の徹底した現場主義で「その人らしい」「いい笑顔」を引き出すための職員育成を行い、それらが『ゆったりとした心と和む』事業所となって表れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見やすい場所に掲示し、意識しながら日々の生活を支援している。	法人の理念を基本にした事業所独自の理念と、より具体的なケア目標を掲げている。利用者一人ひとりの気づきや出来ることを見つけ出して、いい笑顔の生活が出来るように、1対1での関わりを重視しながら、職員はその実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事と(夏祭り、盆踊り、バザー)等への参加で交流ができています。職員の方から積極的に挨拶や声掛けをするように心掛けている。	昨年4月に同町内の現在の場所に移転したが、事業所の管理者として行事だけでなく町内会の役員会へも参加する機会を得るなど、より一層地域交流の重要性を意識している。事業所行事へ参加依頼のチラシ配布を行い、近隣住民の参加が増えるなど、成果が表れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者との買い物、散歩、外出の機会を通して、近隣、地域の中で理解して頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告、意見、要望を取り入れた会議を行い、サービス向上に役立てている。	事業所の近況や行事、事故報告も伝えながら、参加者から課題等をもらい、理解と支援を得る良い機会となっている。課題は職員で話し合い解決し、次回報告できるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度の相談員の訪問があり、運営推進会議の報告も兼ねている。年一回の報告会にも参加し、協力関係を築けるようにしている。	市の担当者には事業所の相談事や事情を理解してもらい、事故発生時は報告書を通して指導等を得ている。介護相談員からはいろいろな情報や助言があり、利用者と一緒に外出してもらえるなど顔なじみの関係を作り上げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束は行わない方針で全員が取り組んでいる。外に出ないことを目的とした施錠も一切行っていない。	年2回の定期内部研修を通して身体拘束は絶対に行わないという信念を、管理者が伝えている。きめ細かい職員の対応で利用者が抑圧感を感じることなく、帰宅願望を訴える方もいないが、日々の関わりの中で言葉の拘束と管理者が感じたときは、本人に直接注意するなどの対応を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修での学習をはじめとして、内部学習会においても、学び合う機会を取り入れている。傷、瘻を見つけたら、お互い気付いた時に申し送り等で話し合い、原因究明、予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加している。研修内容についても報告、周知している。今後、徐々に活用する方が多くなってくる制度なので、研修会等の参加、学習を積極的に行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約又改定時には時間を取り詳しく説明し、同意を得よう努めている。理解、納得出来ないときは何度でも説明し不安、疑問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見や要望を引き出す努力をしている。	担当者会議だけでなく、家族等との面談を数多く持つようにしている。面会に来てくれる家族等も多いので、何でも言ってもらえる雰囲気作りに努めている。利用者からも日常的な会話を通して、意見や要望を聴き取れるように職員が心がけ、それらを日々のケアに活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を出し易い職場作りをしながら反映させるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持ち、仕事ができるように職場環境、条件の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に多く参加できるように配慮をし、より多くの情報を伝える努力をしている。学びの場として内部研修は定期化している。	経験年数の少ない職員が多い為、新人教育マニュアルで研修しながら、記録を残し振り返りに活用している。資格取得を目指している職員にはシフト上の配慮を最大限行い、事業所全体でバックアップ体制をとっている。職員の能力や段階に応じた研修参加を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHの交換研修を通じて、他事業所との交流を持つことにより、サービスの質の向上に取り組んでいる。 ☐	グループホーム連絡協議会には職員が交替で参加している。参加した職員からの具体的な提案を実際のケアに取り入れている。また同一法人内職員が地域の集会場で一堂に会してコミュニケーションの勉強会を行い、質の向上に励んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一同きめ細かい配慮に努め、本人の思いや家族の要望、不安を受け止め信頼関係作りに努め、支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安、要望を聞きながら、家族の思いを受け止め、今までの対応や介護に労いの言葉をかける。本音で話せる関わりを持てるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い、希望を聞き、同じ視点に立つことで支援出来ることを見極める。早急な対応が必要と思われる時は、看護師と相談しながら医療連携を取ったり他サービス利用も検討しながら支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを職員が共有しており、時には叱られたり、助けってもらったりしながら、共に生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら本人の思いを家族に上手く伝えられるよう努力している。面会時には本人、家族がゆっくりできるように配慮している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの利用している美容室に行ったり、知人・友人との交流を継続できるように支援している。面会時にはアルバムを見せたり写真を撮るなど本人と家族への思いが途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、一人ひとりの体調、身体の状態を見守りながら利用者同士のかかわりができるよう場面づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもこれまでの関係を大切にしている。遊びに来ていただけるよう継続的な付き合いを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共にすることで言葉表情などから好き嫌い等を理解できていると思う。又家族からの情報をもとに本人の希望、好みを聞き把握に努めている。	利用者と職員の1対1での関わりのなかで、言葉が出にくい方からはしぐさや表情から希望や意向を汲み取るように心がけている。家族等との密接な関係からいろいろな情報を得ながら、一方的にならないように職員全体で判断するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聞くようにしているが、ほとんどの人が会話が成立しない状況の為、プライバシーに配慮しながら家族等から状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのリズムを大事にし、小さなことでも残存機能を見つけ出す努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで検討している。本人、家族の希望、要望を聞き、計画に取り入れ、勉強会でモニタリング内容を確認している。	担当制にすることで深い気づきを求め、全員参加のカンファレンスでは出来ること、出来そうなことを意見交換している。話し合った内容やプランチェック表等で介護計画の見直しを行い、全体で実践を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートを活用し言動を記録している。話し合いや申し送りケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉協力員、民生委員、消防等から協力を得られるように日頃から挨拶をして顔なじみになり、利用者が地域の中で安心して暮らしを続けられるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、家族同行で本人のかかりつけ医の受診等、適切な医療が受けられるようになっている。	利用前からのかかりつけ医への継続受診は家族等が付き添い、他科受診は看護師同行の場合もある。協力医の往診や常勤の看護師による24時間対応など適切な健康管理に努めており、秋には口腔検査の訪問診療も予定している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護が週2回勤務しており、勤務時及び随時の連携が図られている。又、必要に応じて指示を仰ぎ、適切な医療が受けられる様、全職員が協力し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の状況情報を的確に伝え、医療がスムーズに行えるようにしている。家族の方にも説明、協力してもらいながら医療関係につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を踏まえ、できる内容を説明、職員全員で取り組む体制を取っている。契約の際には、できる内容を説明している。	入居時に事業所の指針を説明しているが、利用者の状況変化に応じて家族等と協力医、看護師、介護支援専門員、職員で話し合いを重ねている。希望を確認しながら方針を統一し、職員も研鑽して全員で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。学習会で応急手当の仕方学んでいる。一人ひとり、不安な部分は再確認し努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。避難訓練、初期消火訓練、通報訓練も実施している。消防署からアドバイスを受けている。	3月に消防署指導のもと総合訓練を実施し、消火器の使い方や反省会をして次回に繋ぎ、9月末に夜間想定訓練も予定している。あらゆる災害を想定して防災用品の見直し点検を行っている。	災害発生した場合事業所だけの対応では限界があると思われる。運営推進会議等で地域に協力依頼をしているが、体制作りまで至っていないので訓練への参加をはじめ関係機関や地域に、理解と協力をさらに働きかけることに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重している。利用者の気持ちに沿った言葉遣いや関わりができていかお互いに確認合っている。	利用者の気持ちを一番に汲み取り、職員は押しつけずに思いに沿った言葉遣いや関わりを心がけている。得意なことをしてもらおうと「笑顔」と「声のトーン」が高く跳ね返ってきて、満足した様子が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めて事を押し付けず選択できる雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活習慣に配慮し利用者のペースに合わせてゆっくり個別で関わる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別で支援している。外出時にはおしゃれには気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物、好物、行事食、外食を楽しめている。利用者ができること（一緒に買い物、野菜の下ごしらえ、片付け等）役割が行えるよう支援している。	近くのスーパーに利用者と食材の買い出しに行き、店頭で並んでいる旬の物を取り入れるなど臨機応変なメニューになっている。利用者の下ごしらえや後片付け等の手伝い参加があり、職員と一緒にテーブルを囲み楽しい食事となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに注意しながら食べる量や水分をしっかりと摂取してもらっている。食事の摂取状況をチェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣化している。洗口液の利用で汚れ臭いのない状態になっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間と習慣を把握しトイレ誘導をすることで、トイレでの排泄を促している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して時間を見計らって声がけ誘導し、なるべくトイレで排泄出来るように支援している。失敗した時はトイレ内に個別に用意している排泄用品を使用することで、目立つことなく素早い対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や乳製品を取り入れ、水分量に配慮し、体を動かす努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めず、体調に合わせて本人の希望を聞きながら支援している。	曜日、時間帯は特に決めずに午前、午後、夕方の好きな時間に入浴している。職員2人で介助のときもあり転倒防止に細心の注意を払い、会話を交えながら入浴剤や就寝前の足浴を取り入れ、安全にリラックスして入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情・希望を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬の名辞典で確認し、薬を知る努力をしている。服薬による変化を見逃さないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて支援をしている。利用者ができそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて(散歩、買物、外食、ドライブ等)外出支援に努めている。歩行困難でも車、車いすを利用して戸外に出掛ける支援に努めている。	事業所の目の前が公園という立地条件に恵まれ、周辺の散歩コースは日課となっており、出会う地域の方とは挨拶を交わしている。ドライブに出かけ季節を感じたり、利用者の体調が良い時は予定外の遠くまで足を延ばすこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し、使える利用者がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で一名は携帯電話を利用している。年賀状や暑中見舞いを出すための支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の利用者が居心地の良い場所・安心感のある場所になるよう工夫し配慮している。リビングと台所が一体化しているので料理する匂いや茶碗を洗う音で、五感の刺激に役立っていると思われる。大きな窓から差し込む光、四季折々の風景など季節の変化を感じることができると思う。	白を基調とし明るく広々としたリビングの大きなガラス戸を開けるとウッドデッキに繋がりと、その先には自家菜園があり、中と外から季節が感じられほっと出来る空間になっている。新築の建物に引っ越して2年目になるが戸惑いもなく、好きな歌を口ずさみながら穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のソファがあり、自分の居心地の良い場所で利用者同士笑顔で談笑したり、言い合いをしたり、歌をうたったり、テレビを見たりとくつろぎ、ゆったり過ごせている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手紙、カレンダー等貼ってある。居心地良く過ごせるよう配慮している。	ベッドやマットレス、家具の配置など利用者、家族等の希望に合わせた居室作りをしている。衣服の季節毎の入れ替えは家族等にしてもらい、利用者との関わりのひとつになるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が利用者一人ひとりの出来ること、わかることを把握し安全を確保して、自立した生活を送れるよう支援していきたい。		